

# CASBEE®名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合性能評価法、省エネルギー性能評価法、省資源性能評価法、省CO2排出量評価法  
使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	令和7年度名古屋国税局業務センター建築工事	階数	地上6F
建設地	愛知県名古屋市東区泉1丁目17-8	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	600人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2024年2月4日
敷地面積	1,868 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	625 m <sup>2</sup>	確認日	2024年2月4日
延床面積	3,596 m <sup>2</sup>	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記②オフサイト手法</p> <p>0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p><b>Q のスコア = 2.8</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 3.1</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 2.2</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p><b>LR のスコア = 3.8</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 4.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 3.7</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>業務処理センターの運営に適した執務空間・性能を確保する。 地球温暖化防止対策に寄与する技術の採用を検討する 積極的な木材利用を促進する</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>内部事務の効率化・高度化を図るため、執務空間を最大限確保する。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>将来の増員やレイアウト変更に対応できる柔軟性のある執務空間を確保する。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>緑化率を最大限確保する</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>高断熱の建築仕上材料、省エネルギー性能の高い設備・機器の導入促進を図る。 ZEB Oriented相当水準の省エネルギーを図ることを目標とする。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>積極的な木材の利用</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>近隣住戸等への日影や圧迫感軽減、視線の配慮(開口部の配置)、騒音振動、光害(太陽光発電パネル)等について、十分考慮する</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

令和7年度 名古屋国税局業務センター建築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル  
 ■評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>			<b>4.1</b>
LR1 エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.3	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>			<b>1.6</b>
Q3.1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>			<b>3.8</b>
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.5	0.016666667	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 4.1
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 1.6
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.8

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。